

平成27年度山梨県学力把握調査

分析と授業改善のポイント

中学校国語版



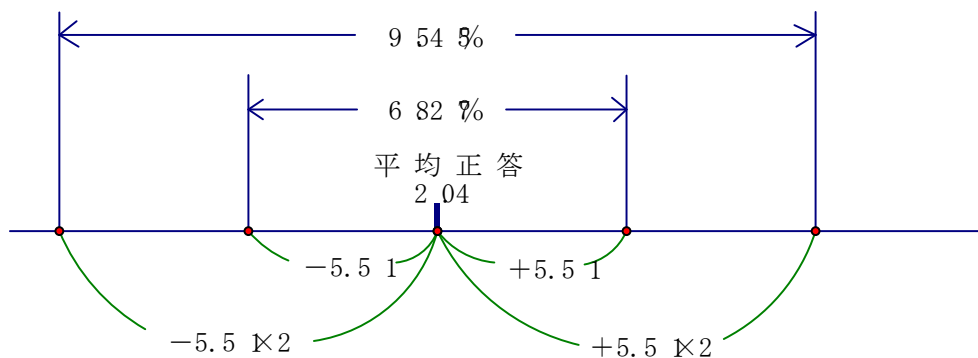
山梨県教育庁義務教育課

～用語の説明～

「中央値」 例えば、対象生徒が121人の場合、その121人を、正答した数が多い順に1番から並べて、ちょうど真ん中の61番の生徒の正答数が中央値となる。一般的には、平均正答数より上か下かで自分の位置を把握することが多いが、中央値を基準にして見る方がより自分の位置をつかみやすい。また、集団同士を比べる場合にも中央値の違いに目を向けることが大切である。

平均正答数と中央値がほぼ一致している場合は、どちらで比べてもあまり変わりはないが、平均正答数と中央値が極端に異なる場合があるので注意する。

「標準偏差」 集団のデータの分布のばらつきを測る1つの尺度である。平均値と標準偏差がわかれば、データがどの範囲にどのような割合で散らばっているか（分布）がある程度、明らかになる。図で表すと次のようになる。



例えば、平均正答数が20.4、標準偏差が5.51の場合、 20.4 ± 5.51 （平均正答数±標準偏差）の範囲に全データの68.27%（約2/3）が含まれ、 $20.4 \pm 5.51 \times 2$ （平均正答数±標準偏差の2倍）の範囲内に全データの95.45%（約19/20）が含まれているという意味である。

標準偏差の値が小さければ、分布のばらつきが小さく、標準偏差の値が大きければ、分布のばらつきが大きいことを表している。自分の学校、学級のデータのばらつき具合を数値として知るために用いる。

「最頻値」 一般的には最も度数の大きい階級値を示すものであるが、本調査では、最も割合（相対度数）の多い正答数のことを指す。

※集団の傾向は、上述の指標となる数値を見ることと、正答数分布でそのらばり具合をみることによって読み取ることができる。

「反応率」 児童生徒の解答を想定した解答類型に該当する児童生徒の解答数の全体に対する割合

	問題番号	出題の要素	解答類型（割合%） ※下線が正答									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
19	10 (1)②	「家族4人が1人3分間ずつシャワーを使うと、お風呂に入る水の量より、シャワーで使う水の量のほうが多くなる」という考え方が正しいかどうかを判断し、そのわけを書く	24.9	15.5	10.1	5.5	9.8	12.6	18.0	0.0	0.4	3.2

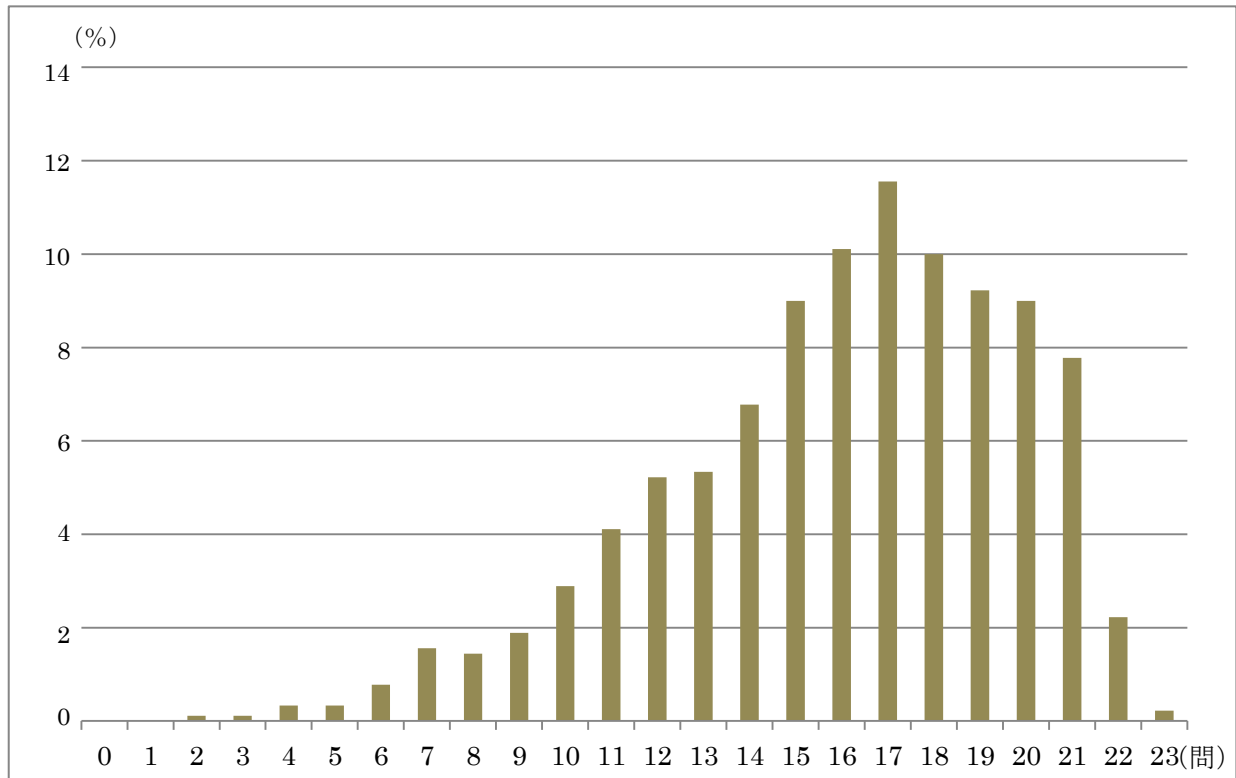
※上の表の ○ で囲んだ数値が、それぞれの解答類型の反応率（%）

平成27年度山梨県学力把握調査結果の分析〔中学校・国語〕

「正答数分布」から見えること

区分	調査人数	平均正答数/設問数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
山梨県	900	15.9 / 23	69.3	16.5	3.82

【中学校国語の正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【分布の傾向をよむ】

- ・正答数の分布は、17問をピークとした「右よりの単峰型の分布」の形状である。
- ・平均正答数15.9は中央値16.5より小さい値となっている。
- ・正答数が18問以上（全体の設問数の80%）の生徒は、38.4%である。
- ・正答数7問以下（全体の設問数の30%）の生徒は、3.2%である。

設問ごとの解答状況

通し 番号	設問 番号	出題の要素	解答類型（割合%）※下線が正答						無解答 0
			1	2	3	4	5	9	
1	1-1	漢字を書く（あさがおの成長をかんさつする）	<u>79.3</u>	5.3	6.4	0.0	0.0	3.0	5.9
2	1-2	漢字を書く（できるだけ多くの情報をしゅうしゅうする）	<u>56.2</u>	4.3	3.8	18.4	0.0	7.2	10.0
3	1-3	漢字を書く（教室のごみをすてる）	<u>79.4</u>	15.0	0.0	0.0	0.0	2.7	2.9
4	1-2-1	漢字を読む（仲間のゴールに歓声を上げる）	<u>97.6</u>	1.3	0.0	0.0	0.0	0.8	0.3
5	1-2-2	漢字を読む（作品を丁寧に扱う）	<u>57.9</u>	31.7	4.2	0.0	0.0	4.6	1.7
6	1-2-3	漢字を読む（水筒の水で渴きをいやす）	<u>92.2</u>	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	4.0
7	1-3	「やうやう」を「ようよう」と書き直す	<u>83.6</u>	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	2.9
8	1-4	行書で書かれた漢字を楷書で書くとき、同じ画数になる漢字を選択する	11.9	1.4	13.9	<u>72.3</u>	0.0	0.1	0.3
9	1-5	「祖父に」が修飾する言葉「書いた」を一文節で選択する	46.0	1.2	23.9	<u>28.1</u>	0.0	0.1	0.7
10	1-6ア	「耳になじんで」の意味として適切なものを選択する	<u>89.8</u>	1.0	0.6	8.2	0.0	0.0	0.4
11	1-6イ	「たわいもない」の意味として適切なものを選択する	4.2	3.3	<u>90.8</u>	1.2	0.0	0.0	0.4
12	1-6ウ	「非の打ちどころがない」の意味として適切なものを選択する	9.0	2.4	2.4	<u>85.6</u>	0.0	0.0	0.6
13	1-6エ	文脈にあった適切な故事成語（「蛇足」）を選択する	4.9	<u>74.0</u>	9.1	11.0	0.0	0.0	1.0
14	1-7	表現の技法の効果として適切なものを選択する	11.1	<u>78.2</u>	3.1	6.9	0.0	0.1	0.6
15	2-1	司会として、話し合いの初めに話す言葉を選択する	13.2	10.3	<u>57.8</u>	18.6	0.0	0.0	0.1
16	2-2	説明の仕方の良い点を選択する	<u>80.2</u>	2.0	5.1	12.3	0.0	0.0	0.3
17	2-3	他者の発言をとらえ、自分の発言を考える	<u>64.0</u>	5.8	0.0	9.2	0.0	11.3	9.7
18	3-1	レポートの内容に適した図表を選択する	7.6	1.6	<u>75.7</u>	13.9	0.0	0.2	1.1
19	3-2	見出しにふさわしい言葉を文章中から書き抜く	<u>32.6</u>	0.0	0.0	0.0	0.0	55.8	11.7
20	3-3	助言をもとに、根拠を明確にして書く	<u>24.6</u>	<u>9.8</u>	<u>3.0</u>	0.0	49.9	0.0	12.8
21	4-1	主人公が「ひやりとした」理由を選択する	<u>69.0</u>	6.3	8.8	15.3	0.0	0.1	0.4
22	4-2	主人公が「ほとんど有頂天になった」の意味を選択する	9.2	24.6	<u>62.8</u>	2.9	0.0	0.1	0.4
23	4-3	「子供の頃の記憶を思い出している表現」を選び、自分の考えを書く	<u>50.1</u>	31.1	1.2	4.0	0.0	4.3	9.2

領域ごとの定着状況 [] : 設問番号

○ : 相当数の生徒ができている (正答率80%以上の設問)

▼ : 課題がある (正答率60%未満の設問にしぼる)

＜伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項＞

○ : 文脈に即して漢字を正しく読むこと (「歓声」「渴き」) [121, 3]
(97.6%, 92.2%)

○ : 歴史的仮名遣いを理解していること (「やうやう」) [13] (83.6%)

○ : 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと (「耳になじんで」「たわいもない」「非の打ちどころがない」) [16ア, イ, ウ] (89.8%, 90.8%, 85.6%)

▼ : 文脈に即して漢字を正しく書くこと (「収集」) [1-2] (56.2%)

▼ : 文脈に即して漢字を正しく読むこと (「丁重」) [122] (57.9%)

▼ : 修飾語と被修飾語の照応について理解していること [15] (28.1%)

＜話すこと・聞くこと＞

○ : 相手に分かりやすく伝えるための工夫を理解していること [22] (80.2%)

▼ : 話し合いにおける司会の役割を理解していること [2-1] (57.8%)

＜書くこと＞

▼ : 段落の役割を理解して文章を構成すること [32] (32.6%)

▼ : 助言をもとに根拠を明確にして書くこと [33] (37.4%)

＜読むこと＞

▼ : 場面の展開に即して、叙述について自分の考えをもつこと [43] (50.1%)

成果と課題

●成果

- ・指導事項と評価方法を明確にした授業への取組により、基礎的・基本的な知識・理解に関わる力の定着が見られる。
- ・古典の音読を繰り返し行う取組により、文語のきまり（歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す）を理解できている。
- ・国語辞典を引く習慣を付けたり、文脈上の意味を捉えさせたりする取組により、身の回りにある語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができている。
- ・「話すこと・聞くこと」の領域において、話す目的や相手などを意識して自分の考えを伝える取組により、聞き手を意識し、相手に分かりやすく伝えるための工夫を理解することができている。

●課題

全体を通じて

- 1 文章から根拠を探し、自分の考えをもって書くなど、記述式の設定に課題がある。

各領域において

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

- 2 文法的知識については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域の指導と関連させた指導を進めてきたが、文節の働きや文節と文節の関係を理解することに課題がある。

<話すこと・聞くこと>

- 3 話し合い活動など、生徒が主体的に学ぶ言語活動に意識して取り組むことを進めてきたが、自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら聞くことや話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たすことに課題がある。

<書くこと>

- 4 読み手に分かりやすく伝えるための記述や構成の工夫などについて考えて書く授業実践を進めてきたが、段落の役割を理解して文章を構成することや根拠を明確にして文章を書くことに課題がある。

<読むこと>

- 5 文章の理解にとどまることのない「課題解決的な学習」を進めてきたが、文脈の中で登場人物の描写を読み取ることや、場面の展開に即して叙述について自分の考えをもつことに課題がある。

改善の傾向が見られる内容

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で改善の傾向が見られる。

○ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す

1三 三 次の の文の やうやう を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

■正答 ようよう

○正答率 83.6%

- ・古典の授業では、古文や漢文を繰り返し音読することを大切にしている。音読を通して、文語のきまりを理解することができてきた結果と考えられる。また、小学校段階から親しみやすい古文や漢文に触れたり、暗唱したりする取組が見られ、その成果も出てきたものと言える。

○ 文脈にあった適切な語句を選択する

1六 六 次のアからウまでの文の 一 線部の語句は、() の1から4までの中のどの意味で使われているか。最も適当なものをそれぞれ一つずつ選び、その番号を書きなさい。また、エの には、どの故事成語が入るか。() の1から4までの中から最も適当なものを一つ選び、その番号を書きなさい。

ア 愛犬の鳴く声は、耳になじんで いた声だからすぐに分かる。

- (1 慣れ親しんで聞いて 2 うわさに聞いて 3 聞き逃さないように聞いて
4 ずっと昔に聞いて)

イ 友だちと たわいもない おしゃべりをする。

- (1 興味深い 2 ためになる 3 たいして意味のない 4 かわいげがない)

ウ 彼のとった行動は、まさに 非の打ちどころがない。

- (1 よいところが全くない 2 おおむね評判がよい 3 他の人の見本となる
4 少しの欠点もない)

エ テストが早く終わったからといって、解答用紙に自画像を描いたのは、 だね。

- (1 五十歩百歩 2 蛇足 3 背水の陣 4 塞翁が馬)

■正答 ア 1 イ 3 ウ 4 エ 2

○正答率 ア89.8% イ90.8% ウ85.6% エ74.0%

※平成26年度全国学力・学習状況調査 小学校第6学年

2

次の一と二の故事成語の使い方として最もふさわしいものを、1から3までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

一 「五十歩百歩」

- 1 姉と私は、残りのケーキをどちらが食べるのかでもめていた。すると、母が私たちを注意して、もめごとに関係のない弟に食べさせた。弟にとって、五十歩百歩だ。
- 2 私たちの学級では、学年で行われる学級対抗ドッジボール大会での優勝をめざして、ほかの学級よりもずっと前から練習を始めた。だから、優勝できたのは、五十歩百歩だ。
- 3 山口さんと川島さんが、学校で出された宿題を五回忘れたのか、六回忘れたのかで言い争っていた。このようなことで言い争う二人は、五十歩百歩だ。

■正答 3

○正答率 44.2%

- ・昨年度の全国学力・学習状況調査で課題のあった故事成語の問題である。故事成語や慣用句を学ぶなど語彙を豊かにする取組を行ったり、分からない言葉は国語辞典を引いて意味を確認することを習慣化し、辞書的な意味だけでなく文脈上の意味を考えさせる指導を行ったりした結果であると思われる。一方、42のように語句によっては意味を誤って捉えているものもあり、継続した指導が必要である。

誤答の分析（上述の▼としてあげた設問の中で、特徴のある誤答について述べる）

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 1 二 2 二 次の1から3までの文中の一線部の漢字の正しい読みをひらがなでいねいに書きなさい。
2 作品を丁重に扱う。

■正答 ていちょう

○正答率57.9%

○特徴のある誤答

- ・類型2 31.7%…「丁重」を読む際、「てい」と解答しているが、「ちょう」と解答していない生徒
複数ある「重」の音読みが理解できていないものと考えられる。

- 1 五 五 次の の文で、祖父に という言葉は、どの言葉にかかっているか。次の①から④の中から、適切なものを一つ選び、その番号を書きなさい。

わたしは、①九州の 祖父に ②ペンで ③手紙を ④書いた。

■正答 ④

○正答率28.1%

○特徴のある誤答

- ・類型1 46.0%…「九州の」を選択している生徒
- ・類型3 23.9%…「手紙を」を選択している生徒

※平成27年度の山梨県学力把握調査（小学校第5学年）で、同様の課題がみられる。

- 4 4 次の文の おばあちゃんに という言葉は、どの言葉にかかっていますか。あとの1から4までの中から一つ選び、番号を書きましょう。

わたしは、きのう、おばあちゃんに 手紙を 書きました。

1 わたしは 2 きんのう 3 手紙を 4 書きました

■正答 4

○正答率24.9%

○特徴のある誤答

- ・類型3 49.8%…「手紙を」を選択している生徒
- ・類型1 13.7%…「わたしは」を選択している生徒

小学校の学力把握調査や全国学力・学習状況調査においても、文法の設問（文節や単語の働き、文節と文節の関係を捉えることなど）に課題が見られる。ここでは、修飾・被修飾の関係を逆に捉え、「修飾する（かかる）」という意味を理解していないものと考えられる。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」領域

2ー

松山さんの学級では、同じ地区の小学校との交流会の内容について話し合い、小学生にクイズを出すことにした。今回は二回目の話し合いである。次の【一回目の話し合いのメモ】と【二回目の話し合いの一部】を読んで、あとの問いに答えなさい。

一 司会の松山さんは、どのように話し合いを始めればよいか。発言 **A** に入る言葉として適切でないものを、次の1から4までの中から一つ選び、その番号を書きなさい。

- 1 今日の話し合いでは実際にクイズを出す問題として、候補をいくつかにまとめたいと思います。
- 2 話し合いの時間は今日の一時間ですので、有意義な機会になるよう積極的に発言してください。
- 3 発言が少ないことが考えられるので、友人の提案に対して必ず五つ以上の質問をしてください。
- 4 一回目の話し合いで、今日までに「言葉に関する問題」を考えてくることになっていました。

【話し合いのメモ】 1回目
「小学校との交流会について」
□何をやるのか
・クイズ（学習したことを生かして）
一 言葉に関する問題
・次回までに、各自でクイズを考えてくる。
□2回目の話し合いで、グループごとにクイズをつくる。
(次の1時間のみ)

2
【二回目の話し合いのメモ】
松山さんの学級では、同じ地区の小学校との交流会の内容について話し合い、小学生にクイズを出すことにした。今回は二回目の話し合いである。次の【一回目の話し合いのメモ】と【二回目の話し合いの一部】を読んで、あとの問いに答えなさい。

松山さん（司会）
各グループごとに話し合いを始めてください。

長
今日は二回目の話し合いになります。では、一回目の話し合いで確認されたことを踏まえて、

松山さん（司会）
では、グループでの話し合いを始めます。

それでは、中田さんからお願ひします。

中田さん
はい、私は「ものを教える言葉」を提案します。日本語はものによって、「一丁」「一膳」と数え方が違います。普段、何気なく使っている言葉に目を向けるとおもしろいのではないかと思います。

小森さん
私は「仮名のもとになった漢字」を提案します。例えば、平仮名の「わ」は、平仮名の「和」の漢字をもとにつくられています。クイズにするとき、「わ」という平仮名を書いた「ワ」プリツプを見せながら出題したら、小学校低学年の児童も楽しめると思います。

松山さん（司会）
中田さんは「ものを教える言葉」、小森さんは「仮名のもとになった漢字」ですね。では、今の二人の提案について質問や意見はありますか。

大泉さん
私は、中田さんの意見に賛成ですが、相手が **B** だと難しいと思います。もう少し易しい言葉の方がよいと思います。

松山さん（司会）
中田さん、今の意見についていかがですか。

- 正答 3
- 正答率 57.8%
- 特徴のある誤答

・類型 4 18.6%・・・「前回の話し合いの確認」を解答している生徒
「話し合いの目的を明確にすること」、「進行方法や時間設定を確認すること」、「前回の話し合いの確認をすること」など、司会者の役割を捉えることができないものと考えられる。

3三

中川さんは、図書委員として、図書館の活性化についてレポートにまとめ、学園祭で発表しようと考えています。次は、中川さんがまとめた【レポート】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【レポート】

図書館の活性化を目指して 緑中学校図書委員会

1. テーマ設定の理由
 緑中図書委員会の目標は「図書館の魅力を伝える」である。カウンターで貸し出しの様子を見ていると、ほとんどの生徒が小説や物語などの本を借りていた。そこで、物語や小説を読む「読書センター」としてだけでなく、様々な資料に触れる「情報センター」として学校図書館を活性化するための方法を探ろうと思った。

2. 調査の方法
 ・学校図書館の利用状況を調べた。
 ・学校図書館の貸し出しカウンターで利用者にインタビューを行った。

3. 調べた内容

1 緑中の図書館利用状況

- ・昨年度、一番利用したのは1年生である。
- ・貸し出し冊数が最も多いのは「文学」である。
- ・読書量に関しては、個人差が大きく、1学期間で1冊も借りていない生徒が約20人いる。
- ・「おすすめの本」や「紹介カード」とともに展示している本はよく借りられている。

図表

2 A としての利用（インタビューから）

- ・「科学的な資料」には、グラフがたくさん載っているの、見ていてよく分かる。
- ・「職業に関する本」では、仕事をしている場面や服装などの写真が多くあり、様子をつかむことができる。なかなか働いている姿を見ることがないので、職業について考える資料として役立った。
- ・インターネット上の情報は、専門的な言葉が多くて難しいが、図書館の資料は中学生向けに解説しているものも多いので理解しやすい。

4. まとめ
 緑中図書館では、生徒が借りていく本が「文学」に偏っていて、事典や図鑑、社会科学や自然科学などの資料的な本はあまり借りられていないことを知り驚いた。資料的な本は、中学生向けに書かれているものも多く、分かりやすい。図書委員として、これから文学以外の分類の本も生徒が借りてくれるよう、借りられていない本の魅力を紹介していきたいと考えている。

5. 参考資料
 ・緑中学校アンケート（平成27年4月）
 ・緑中学校図書館貸し出し状況調査（平成26年度）

三 中川さんは、レポートの下書きを他の図書委員に見てもらったところ、資料的な本は、中学生向けに書かれているものも多く、分かりやすいの部分について、「文学以外の本の分かりやすさについてもう少し説明した方が良い」というアドバイスをもらった。そこで、**2**のインタビューを基にして書いた考察を追加することにした。次の の B に当てはまる言葉を【レポート】の中にある言葉を使って、**六字以内**で書きなさい。

資料的な本は、B が豊富にあり、専門的な言葉が中学生向けに解説されているものも多く、分かりやすい。

■正答 グラフや写真

○正答率 37.4%

○特徴のある誤答

- ・類型5 49.9%…キーワード「グラフ」「写真」のどちらも使わないで解答している生徒インタビューの内容を読み取り、意見を支える根拠を捉えることができないものと考えられる。

4三 三 学級で、この文章の気になった表現についてグループで考えを交流することになりました。あなたのグループは次の場面に着目して交流しました。次は、【着目した場面】と、そのときの【会話の一部】です。これらを読んであとの問いに答えなさい。

あなたは、【着目した場面】から「子供の頃の記憶を思い出している表現」を選び、紹介することになりました。あとの【条件】にしたがって、あなたが選んだ表現を解答用紙の（表現）の に書きなさい。また、その表現からどのようなことが分かるのか。あなたの考えを、（考え）の に書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしても構いません。

【条件】

条件1 （表現）には、本文中の言葉や文を引用すること。（原田さんと内山さんが引用しているところは除く）

条件2 （考え）には、あなたの考えを八十字以上、百字以内で書くこと。

【着目した場面】

そこには古い、印ばんでんに、季節外れの表紙をかぶった、背の高い土工がたたずんでいる。――そういう姿が目に入ったとき、良平は年下の二人と一緒に、もう五六間逃げ出していた。――それぎり良平は使いの掃りに、人気がない工事場のトロッコを見ても、二度と乗ってみようと思ったことはない。ただそのときの土工の姿は、今でも良平の頭のどこかに、はっきりした記憶を残している。薄明りの中はほめいた、小さい黄色の葉栗樹、――しかしその記憶さえも、年ごとに色彩は薄れるらしい。

「しかし、その記憶さえも、年ごとに色彩は薄れるらしい」という表現が気になりました。この話は、昔のことを思い出して語っているのだと考えました。

原田さん

私も原田さんと同じところが気になりました。「しかしその記憶さえ」とあるので、良平にとって子供のときの悪い経験であり、トロッコのことをあまり思い出したくないのではないかと思います。

内山さん

他にも最後の段落には、子供の頃の記憶を思い出している表現がたくさんありそうだね。

原田さん

という表現から、子供の頃の記憶を思い出していることが分かると思います。

あなた

- 正答例 （表現）今でも良平の頭のどこかに、はっきりした記憶を残している
- （考え）「記憶を残している」とあるので、トロッコに乗ってから大分時間が経過していると考えます。また、「はっきりした記憶」とあるので、子供時代の楽しくも怖かった記憶として残っているのではないかと思います。

○正答率 50.1%

○特徴のある誤答

- ・類型2 31.1%・・・「条件2 引用した（表現）に対する考えを、適切に書くこと」「条件3 80字以上、100字以内で書いている」という条件は満たしているが、「条件1 【着目した場面】から言葉や文を引用している」という条件を満たして書くことができない生徒

本文を引用して書くといった「条件」への意識が低かったものと思われる。自分の考えを書くことはできるが、考えの根拠となる部分（ここでは表現）を、本文から探して書くことができなかったものと考えられる。

授業改善のポイント〔中学校・国語〕

＜伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項＞

□言語活動を通して活用することの重視 ←課題2

- ・漢字の指導に当たっては、漢字の成り立ちや構造に興味関心をもたせるような指導を工夫する。また漢字の意味から音・訓の読み方を理解するといった指導を取り入れる。
- ・語句の指導においては、語句の辞書的な意味を正確に理解するとともに、文脈上における意味を捉えることによって語感を磨く学習活動が有効である。また、日常生活や読書等をとおして得た言葉だけでなく、日常的に使う機会が少ないと思われる語句や抽象的な語句などに触れる機会を意図的に作り、「言葉ノート」に言葉を書き溜めるなどの語句の拡充を図る手立てを工夫する。
- ・文法の指導においては、単に知識として学習するだけでなく、実際の言語活動の中で活用し、生きて働く力として身に付けることが求められる。例えば、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の学習で、文の成分の照応を意識して話したり、自分の書いた文章を推敲したりする指導を意図的、継続的に取り入れる。

＜話すこと・聞くこと＞

□話し合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、聞いたりすることの充実 ←課題3

- ・話す目的・相手・場面・手段などを意識して、自分の意見を伝える学習活動を取り入れる。
- ・話し合いの場面では、話し合いの目的を理解し、自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら聞くことが大切である。例えば観点を明確にさせてから、話の要点をメモしたり質問したりして聞くことも有効である。
- ・司会を立てて話し合いを行う場合には、司会の役割を意識できるように指導する必要がある。小集団を活用した学習の際に順番に司会をさせるなど、全員が体験する場面を設定する。

＜書くこと＞

□構成を考え、読み手に伝わる文章を書くことの充実 ←課題1, 4

- ・レポートや報告書などを作成する際には、集めた材料を分類し、段落の役割を理解して文章の構成を考えることが大切である。例えば、集めた材料や自分の考えなどを付箋紙に書き出し、それらを取捨選択したり並び替えたりして構成メモを作り、まとまりごとに見出しを付ける学習活動などが有効である。
- ・事実や事柄を伝える文章を書く場合、自分の思いや考えを繰り返すだけでは相手に伝わる文章にはならない。伝えるべき事柄を簡潔に分かりやすく書くとともに根拠を明確にすることが必要となる。書いた文章を客観的に捉えるために、交流をとおして、「題材の捉え方や材料の用い方、根拠の明確さ」などについて、助言し合う活動も有効である。

＜読むこと＞

□文章の構成や展開、表現の特徴を捉えて読むことの充実 ←課題1, 5

- ・登場人物の心情を読み取るためには、登場人物の行動や情景描写などに注意して読み、物語の全体像を把握する必要がある。例えば、登場人物の心情が読み取れる描写に線を引きながら読み進めるといった学習活動を習慣化することが大切である。
- ・文章について「自分の考えをもつ」とは、文章についての印象をもつことにとどまらない。叙述について自分の考えをもつためには、文章の構成や展開、表現の特徴などについて分析的に捉える必要がある。その工夫や効果について考えを交流する場面を設定する。